



歯科保健医療国際協力協議会 第27回総会および学術集会のご案内

【総会および学術集会】

2016年7月3日（日）

会場：琉球大学医学部 臨床講義棟1階小講義室

*8時30分より役員会を開催致します

【前夜祭および学生研修会】

7月2日（土）14時～

会場：宜野湾トロピカルビーチ BBQ用テント22番

【懇親会】

7月3日（日）13時～

会場：琉球大学医学部 臨床講義棟1階ロビーラウンジ

大会長 村田千年（マリーナ歯科クリニック）

問い合わせ先：jaicoh27okinawa@yahoo.co.jp

ご挨拶

第 27 回歯科保健医療国際協力協議会総会および学術集会 大会長 村田千年

このたび、第 27 回歯科保健医療国際協議会の開催を仰せつかりました村田です。聖路加国際病院勤務時代からカンボジア・パキスタン・東ティモールなどでの活動に関わらせて頂き、現在は沖縄を拠点にバングラデシュ支援活動を行っております。

今回は初の沖縄開催ということで、毎年恒例の前夜祭は沖縄らしく「ビーチパーティー：ビーチで行う BBQ などの宴会」を企画致しました。学会だけではなく、沖縄の美しい海や自然を楽しんで頂ければと考えています。

沖縄には「いちゃりばちよーでー」という言葉があります。これは「出会えば、兄弟」といった意味で、「一度知り合ったからには兄弟も同然、助け合いましょー」というウチナンチュー（沖縄人）の優しい心を表していると思います。

国際協力活動はまさにこの「いちゃりばちよーでー」の精神なのではないでしょうか。国際的な医療格差に歯科医師の立場から取り組む、いちゃりばちよーでー的な活動報告が今年も本学会で活発に討議されることでしょう。

また、昨今は国内でも貧困格差や大規模災害など、国内協力・ボランティアの必要性が高まっていると感じています。

ここ沖縄でも子どもの貧困問題などは深刻な課題として存在します。

2015 年の調査では沖縄の子どもの約 3 割が貧困であり、これは全国平均の約 2 倍近い数値だそうです。（相対的貧困率：全国平均 16.3% 沖縄県 29.9%）。

現在沖縄では無料学習塾やフードバンクなど NGO による子どもの貧困改善に向けた取り組みがなされていますが、我々、歯科医療関係者も国際協力活動などで得たノウハウを活かして、国内協力・ボランティアへと活動が派生していければ望ましいと願っています。



プログラム

特別講演

特別講演 (12:10~13:10)

第12回ヘルシーソサエティ賞ボランティア部門受賞記念

座長：白田千代子

ネパール歯科医療協力会，カムカムクメール

若き歯科医療者よ 国際医療貢献に青春を見つけよ！

For Young Dental Patriots! Find Bloom of Youth for International Medical Contribution!

宮田 隆 先生

特) 歯科医学教育国際支援機構理事長

一般口演

第I部 (9:30~10:20)

座長：谷野 弦

名戸ヶ谷病院 歯科診療室，日本大学松戸歯学部 口腔外科学

歯科医学教育国際支援機構 (OISDE)

1. ネパール大地震後の「子どもの心プログラム」～二次元マップを用いて～

○原田有理子¹⁾ 中村修一²⁾ 白田千代子²⁾ 深井穂博²⁾

1) 九州大学歯学部 歯学科6年

2) ネパール歯科医療協力会

2. バングラデシュにおける口腔衛生指導テストランの実施報告

○萩野谷 大^{1, 2)}，三浦和仁^{1, 2)}，三原 竜太郎^{1, 2)}，本多丘人^{1, 2)}，滝波修一²⁾

1) 北海道大学歯学部 冒険歯科部

2) 北海道大学歯学部

3. バングラデシュにおける口腔衛生活動の報告

○小松崎悟郎^{1, 3, 6)} 村田千年^{2, 3, 6)} 玉木由美^{3, 6)} 松田曙美⁴⁾
堀江康夫^{5, 3, 6)}

- 1) しらかばデンタルクリニック
- 2) マリーナ歯科クリニック
- 3) You & Me International School
- 4) JR 札幌病院歯科口腔外科
- 5) 聖路加国際病院歯科口腔外科
- 6) ルカジャパン

4. ケニア共和国ナイロビ市のスラム地区における無料歯科医療支援の経験

○大坪 誠治¹⁾, 宮城島 拓人²⁾, 濱村 千晶³⁾, 稲田 頼太郎⁴⁾

- 1) 釧路労災病院歯科口腔外科 (部長)
- 2) 釧路労災病院内科 (副院長)
- 3) 名取病院歯科口腔外科 (歯科衛生士)
- 4) NPO 法人イルファー (代表)

5. パラグアイ共和国から紹介された日系1世の白血病患者の一例

○原田晴子¹⁾ 小林直樹²⁾ 重松明男²⁾ 加藤剛士¹⁾

- 1) 札幌北楡病院歯科
- 2) 札幌北楡病院血液内科

第Ⅱ部 (10:20~11:00)

座長：有川量崇

日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学講座

6. ベトナム ニンビン省での18年間の口唇口蓋裂医療支援の成果と問題点

○森 悦秀¹⁾, 山田朋弘¹⁾, 中野旬之¹⁾, 住田知樹¹⁾, 南 克浩²⁾,
丹羽 均³⁾, 森 明弘²⁾, 松川良平²⁾, 菅原利夫²⁾, 夏目長門²⁾

- 1) 九州大学 大学院歯学研究院口腔顎顔面外科学分野
- 2) 愛知学院大学歯学部 口腔先天異常学研究室
- 3) 大阪大学 大学院歯学研究科歯科麻酔学教室

7. エチオピア連邦共和国における口唇口蓋裂医療援助

○西原一秀^{1, 2, 3)}, 又吉 亮^{2, 3)}, 古波蔵大祐^{2, 3)}, 長島勇毅^{2, 3)}, 古川博雄⁴⁾,
夏目長門⁵⁾, 新崎 章^{1, 2, 3)}

- 1) 琉球大学 大学院医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座
- 2) 琉球大学医学部附属病院 歯科口腔外科
- 3) 琉球大学医学部附属病院 口唇口蓋裂センター

- 4) 愛知学院大学心身科学部 健康科学科
- 5) 愛知学院大学歯学部 口腔先天異常学研究室
- 8. 口腔領域の医療協力により名誉領事館の開設へ
 - 夏目長門^{1, 2, 3)}, 古川博雄^{2, 4)}, 松本 定道^{2, 3)}
 - 1) 愛知学院大学歯学部 口腔先天異常学研究室
 - 2) 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会
 - 3) 在名古屋エチオピア連邦民主共和国名誉領事館
 - 4) 愛知学院大学心身科学部 健康科学科
- 9. 日本の薬を発展途上国へ

- 夏目長門^{1, 2)}
- 1) 特定非営利活動法人 日本医学歯学情報機構
- 2) 愛知学院大歯学部 口腔先天異常学研究室

第Ⅲ部 (11:00~11:30)

座長：遠藤眞美

日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座, 南太平洋医療隊

10. アジア研修生 (PHD 協会) への口腔保健研修の受け入れ

- 黒田耕平¹⁾
- 1) 神戸医療生協 生協なでしこ歯科(日本モンゴル文化経済交流協会)

11. モンゴル国における歯科実態調査結果と求められる

次世代国際協力システム ~HAPPY TOOTH PROJECT 開催にむけて~

- 近藤 (志賀) 千尋¹⁾
- 1) 近藤歯科

12. 第 16 次モンゴルスタディツアー事業報告

- 浅野一磨¹⁾, 池田彩音¹⁾, 松浦葵¹⁾, 伊東紘世¹⁾, 坂東美保¹⁾, 眞木吉信¹⁾
- 1) 東京歯科大学 国際医療研究会

第Ⅳ部 (11:30~12:10)

座長：門井謙典

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座

13. トンガ王国における学校歯科保健プログラム —マリマリプログラム—

- 竹内麗理^{1, 2)}, 河村康二^{2, 3)}, 河村サユリ^{2, 3)}, 遠藤眞美^{2, 4)}, 内田千鶴^{2, 3)}, 横山恭子^{2, 3)}, 内野和顕^{2, 5)}, Sisilia Fusi Fifita^{2, 6)}
- 1) 日本大学松戸歯学部 生化学・分子生物学講座
- 2) 南太平洋医療隊
- 3) カワムラ歯科医院
- 4) 日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座

- 5) 横浜市立大学医学部
- 6) トンガ王国保健省 VAIOLA 病院

14. トンガ王国における歯科医療ボランティア活動 2015年

～みんなで歯科室を見に行こう！！～

○遠藤眞美^{1, 2)}, 横山恭子^{2, 3)}, 河村サユリ^{2, 3)}, 河村康二^{2, 3)}, 内田千鶴^{2, 3)}
竹内麗理^{2, 4)}, Sisilia Fusi Fifita^{2, 5)}, 野本たかと¹⁾

- 1) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座
- 2) 南太平洋医療隊
- 3) カワムラ歯科医院
- 4) 日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座
- 5) トンガ王国保健省 VAIOLA 病院

15. 離島での訪問診療・口腔ケア

○横山恭子^{1, 2)}, 竹内麗理^{2, 3)}, 遠藤眞美^{2, 4)}, 内田千鶴^{1, 2)}, 河村サユリ^{1, 2)},
河村康二^{1, 2)}

- 1) 南太平洋医療隊
- 2) カワムラ歯科医院
- 3) 日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座
- 4) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座

16. トンガ政府職場での生活習慣病予防活動

○河村康二^{1, 2)}, 竹内麗理^{2, 3)}, 遠藤眞美^{2, 4)}, 横山恭子^{1, 2)}, 内田千鶴^{1, 2)},
河村サユリ^{1, 2)}, Sisilia Fusi Fifita⁵⁾

- 1) 南太平洋医療隊
- 2) カワムラ歯科医院
- 3) 日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座
- 4) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座
- 5) トンガ王国保健省 VAIOLA 病院

懇親会

懇親会 (13:10~14:00)

小講義室ロビーラウンジにて、軽食・お飲み物の用意がございます



抄 録

特別講演

一般口演

特別講演

座長：白田千代子

ネパール歯科医療協力会，カムカムクメール

若き歯科医療者よ 国際医療貢献に青春を見つけよ！

特) 歯科医学教育国際支援機構理事長 宮田 隆 先生

【略歴】

1950 年生

日本大学歯学部卒

1996 年 明海大学歯周病学教授

1998 年 明海大学病院長

2002 年 特) 歯科医学教育国際支援機構設立 理事長に就任

1991 年～ カンボジア，東ティモール，ラオスなどを中心に国際医療貢献・教育支援活動を行ってきた。

2016 年 3 月 第 12 回ヘルシーソサエティ賞受賞

5 月 日本歯周病学会・学会賞受賞

私が国際医療貢献の道を志して四半世紀。やっと，若い人たちに国際医療貢献とは何ぞや，を語れる年齢となり，また，それなりの体験も積んだと思います。この 3 月に保健・医療・ボランティア部門では最も権威あるヘルシーソサエティ賞を歯科界で初めて受賞し，その記念にこのようなお話できる機会を頂いたことを関係各位に心より感謝申し上げます。今回は，これから国際医療貢献を志す若き歯科医療者たちに向け，どう実践していくか，そのヒントについて私の体験を踏まえお話したいと思います。まず，国際医療貢献を志すための適性と心構え，次に私たちが国際医療貢献をしなくてはならない背景，すなわち貧困，不平等，そして開発という問題についておさらいをいたします。最後に国際医療貢献の道標についてお話します。具体的にどのように国際医療貢献を実行してゆくか，そんな参考になったらと希望します。

For Young Dental Patriots!

Find Bloom of Youth for International Medical Contribution!

President of Organization of international support for dental education

Takashi Miyata

Aspired the international medical contribution, time was elapsed a quarter of century. At last, it becomes age to be able to relate that what is the international medical contribution for young dental patriots. I would like to explain about outline of international medical contribution based on my experiences. At first, I would like to comment on the review of aptitude and attitude to want to be international medical contribution, the background of poverty, inequity and the development. Finally we will discuss about the signpost of the way of international medical contribution.

一般口演

1. ネパール大地震後の「子どもの心プログラム」～二次元マップを用いて～

○原田有理子¹⁾ 中村修一²⁾ 白田千代子²⁾ 深井穂博²⁾

- 1) 九州大学歯学部歯学科6年
- 2) ネパール歯科医療協力会

ネパール歯科医療協力隊の第29次「特別隊」に参加し、2015年4月のネパール大地震を経験した子どもたちの心のケアを目的として、対話的な接近を試みたので報告する。

ネパール大地震復興に向けて2015年9月に先遣隊が派遣された結果「子ども」に対するケアをして欲しいとの声があり「二次元イメージマッピング法(TDM)を用いた対話の支援」を行うこととなった。事前に今回訪問した小学校の生徒に地震に関する作文を書いてもらい、共通する内容を抽出し16枚の絵カードを開発した。また絵カードを並べる台紙はX軸<Bad>Y軸<Good>と作成した。子ども達は絵カードを自分なりに配置しマップを作成し、クラスメートとマップを見比べながら自分の経験や考えを共有した。マッピング後に「地震の体験を家族や友達と話す機会が少ないから話を聞いてもらえて嬉しかった」「よく考えてみると嫌な経験の中にも良い事があったと気づいて心が軽くなった」という声があった。これからの生活でも地震を恐れて口を閉ざすのではなく、対話を通じて<Bad>から<Good>を見いだせるような取組みが必要である。

Heart-Healing Program for Children After a Nepal Earthquake : A Two Dimensional Mapping Method

YURIKO HARADA¹⁾, SHUICHI NAKAMURA²⁾, CHIYOKO HAKUTA²⁾,
KAKUHIRO FUKAI²⁾

1) 6th Grade, Faculty of Dental Science, Kyushu University

2) Association of Dental Cooperation of Nepal

This abstract reports on a heart-healing program for Nepali children after the 2015 earthquake as an activity of the Association of Dental Cooperation in Nepal (ADCN).

As an earthquake recovery, there was a special request by local people to organize a program for children. We conducted a “Two Dimensional Mapping Method (TDM)” to urge children to talk about their experience frankly. As an advance preparation, we asked local children to write about their earthquake experience. Then, we chose 16 key words that are commonly written. Also, we made papers that have two axes (Vertical: Good, Horizontal: Bad), so that children could decide where to mount these key words based on their emotional feeling. Also, they had time to share their experience by showing their maps to each other. After the program, we heard from the participating children that they felt happy to be able to share their experience through TDM because they did not have an opportunity to talk about the earthquake among friends. Some mentioned that they realized that there were always positive sides even in negative things. Further discussion is needed to find out how to support and encourage such sharing activities in the future.

2. バングラデシュにおける口腔衛生指導テストランの実施報告

○萩野谷 大^{1,2)}, 三浦和仁^{1,2)}, 三原 竜太郎^{1,2)}, 本多丘人^{1,2)}, 滝波修一²⁾

- 1) 北海道大学歯学部冒険歯科部
- 2) 北海道大学歯学部

北大冒険歯科部は Bangladesh 国において、今年から始まる JICA プロジェクトに備え現地 Dr.や学生と協力して口腔衛生指導テストランを行った。首都 (Cinnomul 小) および郊外 (Talma 小) の二つの小学校を訪れ、口腔内実態調査と生活に関する比較研究、および TBI と紙芝居による歯磨き習慣の樹立の補助を行った。

今回は調査結果の報告とともに、学生の国際歯科保健活動への参加意義についても今一度考えてみる。ライセンスを持たない学生が出来ること、学べる事は何なのかを模索する。

Report of oral examination and oral health promotion in Bangladesh

○Dai Haginoya, Kazuhito Miura, Ryutaro Mihara, Okahito Honda,

Shuuichi Takinami

1) IDAH(Interactive Dental students' Alliance for Health care

2) School of Dentistry, Hokkaido University

In Bangladesh, we did oral hygiene instruction with the local Dr. and students in preparation for the JICA project, starting from this year. We visited two of the elementary school of urban and rural area. And we carried out the study of oral conditions, the comparative study of life and the help of the establishment of tooth brushing habits by TBI and the picture-story show.

This time I will inform the result of the investigation and reconsider the meaning of participation in the international oral health care as a student. Students without the license look for what they can do and what they can learn.

3. バングラデシュにおける口腔衛生活動の報告

○小松崎悟郎^{1,3,6)}，村田千年^{2,3,6)}，玉木由美^{3,6)}，松田曙美⁴⁾，堀江康夫^{5, 3, 6)}

- 1) しらかばデンタルクリニック
- 2) マリーナ歯科クリニック
- 3) You & Me International School
- 4) JR 札幌病院歯科口腔外科
- 5) 聖路加国際病院歯科口腔外科
- 6) ルカジャパン

バングラデシュは、首都をダッカとし、人口約1億5900万人、面積147,000 km²インドの東側に位置する発展途上国である。近年高い経済成長率（2015年6.55%）を示しているが貧富の差が大きく、農村部等生活、教育、公衆衛生面で依然取り残された地域が沢山ある。

そこで我々は、2011年12月に取り残された地域の一つであるダッカ近郊農村部にあるYou & Me International Schoolの児童生徒の口腔衛生状況を視察したところ、劣悪な口腔衛生状態を確認した。更にその結果をSapporo Dental College学長のDr. M. A. Hannanらに報告した。その結果、Sapporo Dental Collegeは、年4回You & Me International Schoolに口腔内検診及び口腔衛生指導を行う事になり、現在も続いている。

年4回の口腔内検診及び口腔衛生指導は、口腔衛生に対する児童生徒の意識に変化をもたらした、との報告がありその概要を報告する。

なお、You & Me International Schoolとは、日本人、玉木由美を代表とし、2007年8月から運営している現地の小中学校である。

A report of oral hygiene status in Bangladesh

○KOMATSUZAKI Goro^{1,3,6)}, MURATA Chitose^{2,3,6)}, TAMAKI Yumi^{3,6)} ,
MATSUDA Akemi⁴⁾, HORIE Yasuo^{5,3, 6)}

- 1) Shirakaba Dental Clinic
- 2) Marina Dental Clinic
- 3) You & Me International School
- 4) Department Dentistry and Oral Surgery, JR Sapporo Hospital
- 5) Department Dentistry and Oral Surgery, St Luke's International Hospital
- 6) Luka Japan

Bangladesh is a developing country. Therefore a lot of Children can't receive education of the oral hygiene. Sapporo Dental College selected You & Me International School as one of the model school. It has given steady results. We will report about it.

4. ケニア共和国ナイロビ市のスラム地区における無料歯科医療支援の経験

○大坪 誠治¹⁾、宮城島 拓人²⁾、濱村 千晶³⁾、稲田 頼太郎⁴⁾

- 1) 釧路労災病院歯科口腔外科（部長）
- 2) 釧路労災病院内科（副院長）
- 3) 名取病院歯科口腔外科（歯科衛生士）
- 4) NPO 法人イルファー（代表）

NPO法人イルファーは米国、日本からのボランティア医療従事者と共に、ケニアにおけるHIV感染者、エイズ患者に薬剤の真の恩恵が行き渡るようなエイズ医療体制の構築、服薬失敗による耐性 HIV 株発生防止と蔓延防止を目的に、2000年7月以来ケニア共和国ナイロビ市スラム地区(Pumwani 地区)において、地域住民を対象とした無料診療を昨年までに24回行ってきた。無料診療は医師(内科、小児科)、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、鍼灸師、看護師、検査技師、HIVカウンセラー等で構成され、過去56,000人を超える地域住民の診察、HIV感染を含む一般健康管理への啓発活動、指導を行ってきた。

今回、ナイロビ市のスラム地区で2014年度、2015年度に無料診療支援活動に参加し、歯科医療および口腔衛生指導活動を経験したので報告する。

Experience of the Free Dental Clinical Support for the Local Residents in the Slum Area of Nairobi, Kenya

○Seiji Ohtsubo¹⁾, Takuto Miyagishima²⁾, Chiaki Hamamura³⁾, Yoritaro Inada⁴⁾

- 1) Japan Organization of Occupational Health and Safety, Kushiro Rosai Hospital, Department of Oral and Maxillofacial Surgery (Chief Director)
- 2) Japan Organization of Occupational Health and Safety, Kushiro Rosai Hospital, Department of Internal Medicine (Vice President)
- 3) Medical Corporation, Hakuyu-kai, Natori Hospital, Department of Dental and Oral Surgery (Dental Hygienist)
- 4) Nonprofit Organization, ILFAR (Chairman)

NPO ILFAR accompanied by medical volunteers from Japan as well as USA has been performing the free medical services (24 times) for the residents of the slum area of Nairobi City, Kenya since July 2000. The purposes of the medical services are 1) to establish model HIV/AIDS treatment system, followed by providing the best benefits of HIV medicines and 2) to prevent development and spreading of the resistant HIV strains due to treatment failure.

The staffs of medical services are physician (adults and pediatrics), dentist, dental hygienist, pharmacist, acupuncturist, nurse, lab technician and HIV counselor. We saw and examined more than 56,000 local residents since a year 2000 and performed enlightenment activity for health maintenance issues including HIV/AIDS.

We, as participants will report our experiences in the activities of dental clinic as well as oral hygiene instruction performed in the free medical services of the year 2014 and 2015 in the Slum Area of Nairobi.

5. パラグアイ共和国から紹介された日系1世の白血病患者の一例

○原田晴子¹⁾ 小林直樹²⁾ 重松明男²⁾ 加藤剛士¹⁾

1) 札幌北榆病院歯科

2) 札幌北榆病院血液内科

【緒言】

今回われわれはパラグアイ共和国から紹介された白血病患者の一例を経験したのでその概要を報告する。

【症例】

患者は当院初診時65歳のパラグアイ在住日系1世の女性。自国での定期健康診断で白血病との診断を受け、長男が在住する北海道での加療を希望して平成27年5月に紹介状を持って当院を受診した。

【処置および経過】

当院血液内科で急性骨髄性白血病と診断され、入院下で造血幹細胞移植が行われた。造血幹細胞移植に先立ち、当科では感染源の精査、スケーリング、義歯の修理および新製、ブラッシング指導等を行い、病室での口腔ケアを徹底した。移植後は重大な粘膜炎を起こすこともなく治療経過は良好であり、現在は外来通院となっている。

【まとめ】

パラグアイと日本の医科歯科治療を経験した患者は、日本の医療のきめ細かさに対し感動していた。患者は日本語を話し意思疎通には問題なかったが日本の病院食にはなじめない様子だった。また、紹介状がスペイン語であったため担当医は紹介時での病状の把握に苦慮した。言語の異なる異国間での患者紹介の方法について考えさせられた症例であった。口腔内に認められたインプラントはパラグアイの研修医により無料で行われたとのことであり、パラグアイでの歯科治療の一端が伺われた。

A case of a leukaemia patient of the 1st generation of Japanese American introduced from Paraguay

○Haruko Harada¹⁾, Naoki Kobayashi²⁾, Akio Shuigematsu²⁾, Tsuyoshi Kato¹⁾

1) Sapporo HOKUYU hospital dentistry

2) Sapporo HOKUYU hospital hematology

[Proem]

We experienced an example of the leukaemia patient introduced from Paraguay this time.

[Case]

A patient is the female of the 1st generation of Paraguayan residence Japanese at the 65 years old of time of this hospital first medical examination. She had a medical examination with leukaemia by routine physical examination at an own country. She hoped for treatment in Hokkaido where son lives and visited this hospital with a letter of introduction in May, 2015.

[Disposal and passage]

Haematopoietic stem cell transplantation (SCT) was diagnosed as acute myelogenous leukemia by this hospital hematology, and was performed under the hospitalization. Made of the close inspection in a source of infection, the dental scaling, the repairing of a denture and TBI, etc. were performed by our family and mouth care in the hospital room was carried without exception before SCT. After that, treatment passage is good and is foreign going to hospital at present without raising an important mucous membrane flame.

[Summary]

The patient who experienced Japanese medical with Paraguay was moved to fineness of the Japanese medical treatment. A patient spoke Japanese and it was no problem in will communication, but it was the state which can't match a Japanese hospital food. A doctor in attendance was anxious about grasp of the condition by the introduction time because a letter of introduction was Spanish. It was the case I could make consider about a way of patient introduction between the foreign country where a language is different. It was said that implanting admitted in the mouth was performed by Paraguayan training dentist for free of charge.

6. ベトナム ニンビン省での18年間の口唇口蓋裂医療支援の成果と問題点

○森 悦秀¹⁾、山田朋弘¹⁾、中野旬之¹⁾、住田知樹¹⁾、南 克浩²⁾、丹羽 均³⁾、
森 明弘²⁾、松川良平²⁾、菅原利夫²⁾、夏目長門²⁾

1) 九州大学 大学院歯学研究院 口腔顎顔面外科学分野

2) 愛知学院大学 歯学部 口腔先天異常学研究室

3) 大阪大学 大学院歯学研究科 歯科麻酔学教室

口唇口蓋裂は、日本を含む先進諸国では治療法が確立し、患者の社会参加はる。一方、発展途上国では未整備の公的医療制度の未整備と治療技術の遅れなどにより、適切な治療を受けられない患者が多く存在する。私たちはこの問題の解決を目指して、ベトナム、ニンビン省で19年間口唇口蓋裂医療援助活動を行ってきたので、その成果と問題点を報告する。

ハノイから約100kmに位置するニンビン市のニンビン総合病院を拠点として、1998年から現在まで19回の現地医療者に対する口唇口蓋裂治療技術供与と未治療患者への無償治療を行った。登録患者数は490名、463例の口唇口蓋裂関連手術を現地スタッフとともに行った。

この結果、口腔外科医3名が基本的な口唇口蓋裂手術を習得し、麻酔医やコメディカルも周術期管理が可能になった。しかし、言語治療、矯正歯科治療および2次的外科治療など2次治療への対応に問題を残しており、今後の活動の方向性を考慮していく必要がある。

An outcome and problems of our medical assistance in cleft lip and palate for 19 years in Ninh Binh Province, Vietnam

○Yoshihide Mori¹⁾, Tomohiro Yamada¹⁾, Hiroyuki Nakano¹⁾, Tomoki Sumida¹⁾, Katsuhiko Minami²⁾, Hitoshi Niwa³⁾, Akihiro Mori²⁾, Ryohei Matukawa²⁾, Toshio Sugahara²⁾, Nagato Natsume²⁾

- 1) Section of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Dental Science, Kyushu University
- 2) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, Faculty of Dentistry, Aichi-Gakuin University
- 3) Department of Dental Anesthesiology, Graduate School of Dentistry, Osaka University

The treatment for cleft lip and palate is almost established in developed countries including Japan. On the other hand, many untreated cleft patients are there in developing countries because of poor social medical delivery service and/or delays of health care technologies. As we have been to offer the medical assistance in cleft lip and palate for 19 years at Ninh Binh Province, Vietnam, we will report its outcome and problems.

We have provided 19 times (10 days each time) instruction of medical technology and voluntary treatment for untreated cleft patients since 1998 at the Ninh Binh General Hospital in Ninh Binh city that locates approximately 100km south from Hanoi. Four hundred and ninety patients were registered and 490 got operation relative to cleft lip and palate with local staffs.

As a result, 3 surgeons acquired basic technique in cleft surgery, and anesthesiologist and co-medical staffs learn perioperative managements. However, secondary treatments, e.g. speech therapy, orthodontic treatment and secondary surgery, are not introduced well. We are now considering such problems.

7. エチオピア連邦共和国における口唇口蓋裂医療援助

○西原一秀^{1,2,3)}、又吉 亮^{2,3)}、古波蔵大祐^{2,3)}、長島勇毅^{2,3)}、古川博雄⁴⁾、夏目長門⁵⁾、
新崎 章^{1,2,3)}

- 1) 琉球大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座
- 2) 琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科
- 3) 琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センター
- 4) 愛知学院大学心身科学部健康科学科
- 5) 愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室

今回、われわれは 2011 年から 2015 年まで 5 回にわたってエチオピア連邦共和国(以下、エチオピア) で口唇口蓋裂患者の無償医療援助活動に参加したので、その活動内容を報告する。

日本口唇口蓋裂協会の医療援助活動としてアジスアベバ市内の Yekatit 12 病院とブタジラ州 Grarbet 病院で口唇口蓋裂患者の治療ならびに技術指導を行った。

参加者は、口腔外科医 8 名、歯科麻酔医 3 名で、手術は 66 名(男性 46 名、女性 20 名、手術時年齢は最小 4 か月、最大 33 歳)に行った。裂型別では片側性唇(顎)裂 45 名、両側性唇(顎)裂 7 名、片側性唇顎口蓋裂 10 名、両側性唇顎口蓋裂 4 名であった。手術内容は、口唇形成術 60 例、口蓋形成術 4 例、口唇修正術 2 例であった。エチオピア国内全体では医師の不足などによって十分な医療システムの確立に至っておらず、また、十分な移動手段と費用がないために地方では満足な医療が受けられない患者が多かった。

A charitable activity for cleft lip and palate in Ethiopia

○K. Nishihara ^{1,2,3)}, A. Matayoshi ^{2,3)}, D. Kohagura ^{2,3)}, Y. Nagashima ^{2,3)},
H. Furukawa ⁴⁾, N. Nagato ⁵⁾, A. Arasaki ^{1,2,3)}

- 1) Department of Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation, Graduate School of Medicine, University of the Ryukyus
- 2) Department of Oral and Maxillofacial Surgery, University of the Ryukyus Hospital
- 3) Cleft Lip and Palate Center, University of the Ryukyus Hospital
- 4) Department of Health Sciences, Faculty of Psychological and Physical Science, Aichi-Gakuin University
- 5) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, School of Dentistry, Aichi-Gakuin University

Introduction: Our charitable activity for CL/P patients was launched with support and funding from the Japan Cleft Palate Foundation for 2011 to 2016. The aim of this study was to better understand the results of this program and the effects of CL/P treatment in this population for our charitable activities in Ethiopia.

Subjects and Methods: Altogether, 8 oral and maxillofacial surgeons and 3 anesthesiologists have visited Yekakit 12 Hospital at Addis Ababa and Garabet Hospital at Butajira, Ethiopia.

Results and Discussion: A total of 100 patients were evaluated for CL/P preoperatively in these hospitals. In all, 66 patients underwent surgery to correct their CL/P. The diagnoses were 14 cleft lips and palates (CLPs) and 52 cleft lips and/or cleft alveolus (CL/A). There were fewer CLP than CL/A surgical cases. With this in mind, a senior surgeon performed 60 cheiloplasties, 4 palatoplasties, and 2 lip reconstructions. The mean age for cheiloplasty was 6 years 7 months (range 4 months to 33 years), which was significantly older than that in a corresponding Japanese population.

Conclusions: We believe that a program that requires our continuing surgical and economic cooperation is needed for making progress in the multidisciplinary treatment of CL/P.

8. 口腔領域の医療協力により名誉領事館の開設へ

○夏目長門^{1) 2) 3)}、古川博雄^{2) 4)}、松本 定道^{2) 3)}

- 1) 愛知学院大学 歯学部 口腔先天異常学研究室
- 2) 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会
- 3) 在名古屋エチオピア連邦民主共和国名誉領事館
- 4) 愛知学院大学 心身科学部 健康科学科

名誉領事館とは、外国との文化交流の促進などを図ることを目的として、外交業務を委託するために、名誉領事を外国政府（任ずる官職、または贈呈される称号）が任命する。名誉領事館とはその活動の拠点であり、相手国の外交業務の一部を社会奉仕活動として行う為に設置している。

我々には25年以上に亘り、世界各国で口腔領域の医療協力を行っており、現地政府からの、この活動の高い評価により、名誉領事館の設置も依頼して頂いており口腔領域の医療協力により開設される名誉領事館は世界的にもユニークなモデルと考えており、本発表ではエチオピア名誉領事館の概要を説明する。

開設年月および開設名誉領事館

- 2005年 在名古屋ラオス人民民主共和国名誉領事館
- 2010年 在名古屋ベトナム社会主義共和国名誉領事館
- 2012年 在名古屋エチオピア連邦民主共和国名誉領事館
- 2013年 在名古屋モンゴル国名誉領事館
- 2014年 在名古屋バングラデシュ人民共和国名誉総領事館

Establishing an Honorary Consulate through Medical Volunteer Activities in Oral and Maxillofacial Field.

○Nagato Natsume^{1), 2), 3)}, Hiroo Furukawa^{2), 4)}, Sadamichi Matsumoto^{2), 3)}

- 1) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, School of Dentistry, Aichi Gakuin University
- 2) Japanese Cleft Palate Foundation
- 3) Honorary Consulate of Federal Democratic Republic of Ethiopia
- 4) Department of Health Science, Faculty of Psychological and Physical science, Aichi Gakuin University

Honorary Consuls are appointed by the sending country to enhance bilateral relations in trade, economy, culture and science between the sending country and the country of his/her citizenship. Honorary Consulates are the center of the activities of the Honorary Consuls and are established to provide some part of diplomatic activities for the sake of the sending countries. The activities of Honorary Consuls and Honorary Consulates are volunteer work. We have been providing medical cooperation at various places in the world for more than 25 years. The medical cooperation is highly appreciated by the governments where we visited. The appreciation resulted in appointing of the Honorary Consuls we recommend and establishing of the Honorary Consulates. We believe that establishing of Honorary Consuls appointed through medical cooperation in the field of oral and maxillofacial field is a unique model of grassroots diplomacy. Here, we report the overview of establishment of the Honorary Consulate of Federal Democratic Republic of Ethiopia.

- Opening year of each Honorary Consulates

- 1) 2005 Honorary Consulate of the Lao People's Democratic Republic in Nagoya
- 2) 2010 Honorary Consulate of the Socialist Republic of Viet Nam in Nagoya
- 3) 2012 Honorary Consulate of the Federal Democratic Republic of Ethiopia in Nagoya
- 4) 2013 Honorary Consulate of Mongolia in Nagoya
- 5) 2014 Honorary Consulate-General of the People's Republic of Bangladesh in Nagoya

9. 日本の薬を発展途上国へ

○夏目長門^{1,2)},

- 1) 特定非営利活動法人 日本医学歯学情報機構
- 2) 愛知学院大学 歯学部 口腔先天異常学研究室

私は長年に亘り、口唇口蓋裂の治療の為に発展途上国への医療援助を続けているが、その大きな問題として、薬効が疑わしい薬剤が多く、薬品の種類が非常に少ない。例えば、日本では14,000程度の薬品を使用しているが、モンゴル国では800種類程度の薬品しかない。

しかし、現状では関税障壁を含め様々な問題があり、多くの患者が必要でも思うように薬が入手できない場合が多い。

そこで日本の大手薬品販売業者と協力を得て、日本で市販している商品等の薬品を発展途上国へ輸出することを進めておりその概要を説明する。

How to Provide Japanese Medicine to Developing Countries?

○Nagato Natsume ^{1), 2)}

1) Japan Medical and Dental Network

2) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, School of Dentistry, Aichi Gakuin University

I have been providing medical assistance for developing countries for many years. In those medical assistance activities, I faced problems with medicine. In developing countries, they often provide medicine with unreliable efficacy and have very few kinds of medicine. For example, around 14,000 kinds of pharmaceutical drugs are available in Japan, while only 800 kinds or so are available in Mongolia.

Currently, however, variety of problems, including tariff barrier, are preventing many patients in developing countries from obtaining medicine necessary for them.

I am working on exporting drugs commercially available in Japan to developing countries necessitating them with the cooperation of a major seller of pharmaceutical drugs. Here, I report the overview of the process.

10. アジア研修生（PHD 協会）への口腔保健研修の受け入れ

○黒田耕平¹⁾

1) 神戸医療生協 生協なでしこ歯科 （日本モンゴル文化経済交流協会）

PHD 協会とは、Peace,Health&Human Development 平和と健康を担う人づくりを行っているNGO団体です。1962年からネパールなどで医療活動に従事した岩村昇医師が自らの経験と反省を踏まえ、「物」「金」中心の一時的援助を超えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱し、1981年に設立されました。草の根の人々による村づくりをコンセプトに、アジア・南太平洋の村の青年を研修生として、毎年3～4人を1年間日本に招き、農業、洋裁、保健衛生といった内容の研修を行い、帰国後もフォローアップを行うこと通じて、草の根の人々による村づくりと生活向上に協力しています。今までに、フィリピン、インドネシア、ビルマなど11カ国から269人の草の根の人々を受け入れています。

神戸医療生協では、1990年頃から震災後の数年を除いて、当初は協同歯科で、その後生協なでしこ歯科において毎年口腔保健衛生研修の受け入れを行っています。

私達がアジアからの研修生の口腔保健衛生研修を受け入れることで、現地に行かなくても日本に居ながら、研修生一人ひとりの口腔の健康だけでなく、研修生の自国の周囲の人々の口腔の健康を守ることができる担い手に育てていくことができれば、と願って活動を行っています。

Peace,Health & Human Development accepted the oral health and hygiene training

○KOUHEI KURODA ¹⁾

1) Kobe Medical Co-op Nadeshiko Dental Clinic

In the Nadeshiko Dental Clinic, we have accepted the oral health and hygiene training for the short-term trainees from three or four of Asia in one year from about 25 years ago. They have continue to oral health prevention activities in return home after the family and community. Without going to the foreign countries we believe that it is a dental health care cooperation while staying in Japan.

11. モンゴル国における歯科実態調査結果と求められる次世代国際協力システム ～HAPPY TOOTH PROJECT 開催にむけて～

○近藤（志賀）千尋¹⁾

1) 近藤歯科

2015年8月、モンゴル・チベット仏教センターのサポートを受け、ウランバートル市内の歯科医療施設15か所（A群：従業員数10名以下、一日の患者総数50名以下の診療所9か所、B群：基幹病院、大学病院6か所）にて歯科実態調査を行った。A群では整備された施設で自費診療の高度な診療が行われており、患者のあらゆるニーズに応えるべく技術的な向上を目指す歯科医師が多く見られた。他方、基幹病院や大学病院等の施設では、頬部腫脹を認める小児が保険診療受診のために長期待機し、国立第一病院のデータでは蜂窩織炎を併発した子供の死亡率は28%であった。

以上のことから①受診機会を逸している子供たちに受診を促し、患者とその保護者に適切な治療と指導をし、②ウランバートル市内の歯科医院への予約登録を行い、③モンゴル人歯科医師の人材育成、技術指導、情報共有を行う HAPPY TOOTH PROJECT を2016年8月1～3日に国立母子保健センターで行う予定である。

**Dental assessment in Mongolia and next generation international
co-operation system**

HAPPY TOOTH PROJECT in Mongolia

○Chihiro Kondo-Shiga¹⁾

1) Kondo dental clinic

In 2015 August, the dental survey was carried out at 15 dental facilities in Ulaanbater, Mongolia (Group A: 9 dental clinics, Group B: 6 major hospitals) under support of Mongolia Tibetan Buddhism center. Group A dentists are eager to learn and provide advanced dental technology without insurance, on the other hand, low income patients lined up for a month to receive insurance covered treatments at major hospitals, the mortality of cellulitis was more than 28% at National hospital.

Based on the result of surveys, I am planning to organize `HAPPY TOOTH PROJECT` on August 1-3, 2016, to encourage children and guardians who never consulted dentists, teach them how to maintain oral condition, and work on taking appointment with Mongolian dental clinics. Second of all, reach out to Mongolian dentists to register the project for accepting low income patients, Japan side will provide advanced level workshop and share the knowledge.

12. 第16次モンゴルスタディツアー事業報告

○浅野一磨¹⁾, 池田彩音¹⁾, 松浦葵¹⁾, 伊東紘世¹⁾, 坂東美保¹⁾, 眞木吉信¹⁾

1) 東京歯科大学国際医療研究会

【事業概要】

期間：2016年8月17日—8月24日

活動場所：モンゴル（ウランバートル）

訪問場所：Mongolian National University of Medical Sciences, Ach Medical University, Naradent Dental Hospital, FAMILY Dental Clinic, NEI Dental, Facial&Cosmetic Clinic, Ikh Zaihan Dental Hospital, Tsoglog Jaaluud 幼稚園, 新モンゴル高校

活動内容：今回で16回目となる本事業ではモンゴルを訪問した。この企画では、全ての学年の学生を参加の対象としているため、歯学部学生としては非常に早い段階から国際協力に興味や関心を持つことが可能になる。今回は現地において幼稚園生や高校生を対象とした歯科保健指導と2つの大学歯学部および4か所の歯科クリニックの訪問を行った。また前回の台湾に引き続いて実施した口腔保健に関する意識調査により、日本・台湾・モンゴルの大学生のデータを比較検討することができた。そこで、学生が主体となって国際協力について考えた本事業の活動報告および実施した調査の結果とその考察について発表する。

16th study tour for community oral health care in Mongolia

○Kazuma Asano¹⁾, Ayane Ikeda¹⁾, Aoi Matsuura¹⁾, Kosei Ito¹⁾, Miho Bando¹⁾,
Yoshinobu Maki¹⁾

1) Student Association of Tokyo Dental College for International Oral Health

【Outline of this project】

Period: 17 -24 August, 2016

Visited country: Mongolia (Ulaanbaatar)

Visited places:

Mongolian National University of Medical Sciences, Ach Medical University,
Naradent Dental Hospital, FAMILY Dental Clinic, NEI Dental, Facial&Cosmetic Clinic,
Ikh Zaihan Dental Hospital, Tsoglog Jaaluud Kindergarten, Shine Mongol

In this 16th study tour, we visited Mongolia for eight days. Five students in Tokyo Dental College joined this program, and visited the kindergarten and high school, and then taught how to brush their teeth. Also, we have been carrying out the oral health survey since the 15th study tour, and this time we compared these results of the questionnaire in Taiwanese, and Mongolian university students. We would like to present our activity in Mongolia.

13. トンガ王国における学校歯科保健プログラム—マリマリプログラム—

○竹内麗理^{1,2)}，河村康二^{2,3)}，河村サユリ^{2,3)}，遠藤眞美^{2,4)}，内田千鶴^{2,3)}，
横山恭子^{2,3)}，内野和顕^{2,5)}，Sisilia Fusi Fifita^{2,6)}

- 1) 日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座
- 2) 南太平洋医療隊
- 3) カワムラ歯科医院
- 4) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座
- 5) 横浜市立大学医学部
- 6) トンガ王国保健省 VAIOLA 病院

南太平洋医療隊は1998年からトンガ王国において子供たちへの口腔保健活動を実施している。この活動はマリマリ（トンガ語で「笑顔」の意）プログラムと名付けられ、様々な組織の関与により、最初小さな事業であったが国際的事業へと成長し、トンガ王国全土へ一様に広まった。さらに現在、この事業は日本人の手から離れ、トンガ人が自立して行え、大人に対しても実施されるものに拡大された。本報告では、マリマリプログラムを近年の成果とこれからの方向性ととも紹介する。

マリマリプログラムは学校歯科保健事業を中心とし、フッ化物洗口やフッ化物配合歯磨剤での歯磨き指導などを実施している。また、この事業を国民へ広めるために、街で「Oral Health Festival」を開催し、さらにTV、ラジオ、新聞、インターネットを通じて広報に努めている。これらの結果、子供たちの口腔保健はDMFT indexの低下と歯磨き習慣の確立によって向上した。

School-based dental health promotion in the Kingdom of Tonga

-MaliMali Program-

○ Reiri Takeuchi^{1,2)}, Kohji Kawamura^{2,3)}, Sayuri Kawamura^{2,3)}, Mami Endoh^{2,4)},
Chizuru Uchida^{2,3)}, Kyoko Yokoyama^{2,3)}, Kazuaki Uchino^{2,5)}, Sisilia Fusi Fifita^{2, 6)}

1) Biochemistry and Molecular Biology, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

2) South Pacific Medical Team

3) Kawamura Dental Office

4) Special Needs Dentistry, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

5) Yokohama City University school of Medicine

6) Vaiola Hospital, Ministry of Health, Kingdom of Tonga

The South Pacific Medical Team (SPMT) has supported oral health care for Tongan juveniles since 1998. This voluntary activity was named the “MaliMali, ‘smile’ in Tongan, Program”, involved several institutes, and was managed by a small organization at the starting point; however, it has grown into an international project and spread to all of the country as a uniform health promotion. Moreover, the promotion has been almost independently managed by Tongans, but not Japanese, staff. In this report, we discuss points of the MaliMali Program which produced these results, issues of the program and measures to improve them, future direction of the program. To improve juvenile oral health, SPMT has carried out fluoride mouth-rinsing and tooth brushing instruction with fluoride-contained dentifrice as well as tooth preservation treatment for school-based dental health promotion. The DMFT index, interviews for tooth brushing customs and dietary habits were applied to evaluate the effect of the promotion. The oral health of Tongan juveniles has been improved with a reduction of the DMFT index and an increase in tooth brushing. The promotion was well received by the Tongan people, and there has been cooperation to manage and expand the promotion.

14. トンガ王国における歯科医療ボランティア活動 2015年

～みんなで歯科室を見に行こう！！～

○遠藤眞美¹⁾, 横山恭子^{2,3)}, 河村サユリ^{2,3)}, 河村康二^{2,3)}, 内田千鶴^{2,3)}, 竹内麗理^{2,3)},
Sisilia Fusi Fifita^{2,3)}, 野本たかと¹⁾

- 1) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座
- 2) 南太平洋医療隊
- 3) カワムラ歯科医院
- 4) 日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座
- 5) トンガ王国保健省 VAIOLA 病院

1998年からトンガ王国で現地の歯科スタッフと共に歯科医療ボランティアを実施している南太平洋医療隊（本隊）は、2005年にその対象を障害児・者まで拡大した。約10年にわたる長期的な活動によって現地スタッフ、トンガの障害者自身および関係者との良好な関係を構築でき、また、障害児・者の適切な歯科保健行動を促すことに成果をあげている。しかし、歯科健診にて治療が必要とされても自ら歯科受診には至っていなかった。受診しない理由として、現地スタッフの受入れへの不安、障害者自身が抱く歯科治療への恐怖が考えられた。そこで両要因の解決をはかるために2015年に国立病院歯科室にて受診体験事業を実施したので報告する。

Oral health promotion for special needs people in Kingdom of Tonga at 2015
~Let's go to dental office in national hospital!!~

○Mami Endoh^{1,2)}, Kyoko Yokoyama^{2,3)}, Sayuri Kawamura^{2,3)}, Kohji Kawamura^{2,3)},
Chizuru Uchida^{2,3)}, Reiri Takeuchi^{2,4)}, Sisilia Fusi Fifita^{2,5)}, Takato Nomoto¹⁾

1) Special Needs Dentistry, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

2) South Pacific Medical Team

3) Kawamura Dental Office

4) Biochemistry and Molecular Biology, Nihon University School of Dentistry at
Matsudo

5) Vaiola Hospital, Ministry of Health, Kingdom of Tonga

The South Pacific Medical Team (SPMT), a voluntary group organized by Japanese dentists, dental hygienists and medical doctors, has worked to improve oral health in the Kingdom of Tonga since 1998. Also SPMT started the support for special needs people in 2005. And now we are maintaining a favorable relationship with Tongan people as a result of the long term activities.

However, almost all special needs patients who had dental diseases such as caries could not come to the dental office. We thought the following reasons: 1) the Tongan dental staffs have no experience in the treatment for special needs patients; 2) the special needs patients think what is the dental treatment.

Thus, we planned to invite the special needs patients to the dental office of the VAIOLA hospital in Tongatapu Island including the capital city in 2015. As a result, they could have a communication with the dental staffs and could study the dental treatment.

15. 離島での訪問診療・口腔ケア

○横山恭子^{1,2)}、竹内麗理^{2,3)}、遠藤眞美^{2,4)}、内田千鶴^{1,2)}、河村サユリ^{1,2)}、河村康二^{1,2)}

- 1) 南太平洋医療隊
- 2) カワムラ歯科医院
- 3) 日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座
- 4) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座

トンガ王国において、う蝕予防を中心とした学校歯科保健活動（Malimali Program）は全土の幼稚園、小学校で普及し成果を上げている。トンガ王国は、世界屈指の肥満国でNCD（糖尿病、心循環器疾患）に罹患し、そのため働き手を失い、国の発展を妨げている現状がある。2013年よりJICAと「トンガ王国における口腔保健のアプローチから生活習慣を改善するプロジェクト」を開始し、歯科（歯周病）からアプローチをし、生活習慣を改善しNCDを予防する取り組みを行っている。今回は、エウア島にて、在宅の高齢者と障がい者を対象に歯科スタッフ、医科スタッフとともに在宅訪問を行い、健診と口腔ケアを実施した。現在のプロジェクトの進行とエウア島での活動を報告する。

Home visit service and Oral health Care in'Eua Island

○Kyoko Yokoyama^{1,2)}, Reiri Takeuchi^{1,3)}, Mami Endoh^{1,4)}, Chizuru Uchida^{1,2)},
Sayuri Kawamura^{1,2)}, Kohji Kawamura^{1,2)},

1) South Pacific Medical Team

2) Kawamura Dental Office

3) Biochemistry and Molecular Biology, Nihon University School of Dentistry at
Matsudo

4) Special Needs Dentistry, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

The South Pacific Medical Team(SPMT) is currently performing the oral prevention program in primary schools in the Kingdom of Tonga since 1998. The results showed a decrease of dental caries in kindergarten and primary schools.

In addition, the Kingdom of Tonga is known for having a lot of people suffering from obesity in comparison with other countries. Therefore, NCD is a problem and many lives were lost early and development and human resources are affected.

The SPMT therefore commenced "The project for improving adult's lifestyle approach from oral health in the Kingdom of Tonga" from 2013 in cooperation with JICA". The project approaches from oral health prevention-periodontal disease, related to improving lifestyle, in trying to prevent and fight against NCDs. The SPMT, together with dental and medical staff of Tonga performed home visit to elderly and disabled of 'Eua.

The presentation reports the Oral Health Check and Care that were provided for them.

16. トンガ政府職場での生活習慣病予防活動

○河村康二^{1,2)} , 竹内麗理^{2,3)} , 遠藤眞美^{2,4)} , 横山恭子^{1,2)} , 内田千鶴^{1,2)} , 河村サユリ^{1,2)} ,
Sisilia Fusi Fifita⁵⁾

- 1) 南太平洋医療隊
- 2) カワムラ歯科医院
- 3) 日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座
- 4) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座
- 5) トンガ王国保健省 VAIOLA 病院

1998 年から、南太平洋医療隊は、トンガ王国でボランティア活動を行っている。その結果、フッ化物洗口を取り入れたう蝕予防活動 (Malimali (トンガ語で笑顔) Program) はトンガ全土の幼稚園、小学校で普及し、う蝕を軽減させる成果を上げた。

一方、トンガ王国は世界屈指の肥満国であり、糖尿病や心・循環器疾患を患い NCD が死亡原因の第 1 位となっている。この事から 2013 年より中高校生、成人を対象とした「トンガ王国における口腔保健のアプローチから生活習慣を改善するプロジェクト」を開始した。私達は歯科スタッフ、医科スタッフと共に、う蝕、歯周病を予防する事から生活習慣を改善するアプローチをし、NCD を予防する取り組みを行っている。

今回はトンガタブ本島において、国の指導的な立場にある各施設に出向き成人健診、質問調査を実施し、健康への啓発活動を実施したのでその活動について報告する。

Lifestyle Disease Prevention Outreach Activity in Tonga Governmental Ministries

○Kohji Kawamura^{1,2)}, Reiri Takeuchi^{1,3)}, Mami Endoh^{1,4)}, Kyoko Yokoyama^{1,2)},
Chizuru Uchida^{1,2)}, Sayuri Kawamura^{1,2)}, Sisilia Fusi Fifita⁵⁾ ,

1) South Pacific Medical Team

2) Kawamura Dental Office

3) Biochemistry and Molecular Biology, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

4) Special Needs Dentistry, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

5) Vaiola Hospital, Ministry of Health, Kingdom of Tonga, Ministry of Health, Vaiola Hospital

The South Pacific Medical Team (SPMT) is currently performing the oral health prevention program (e.g. Fluoride Mouth-Rinsing) in primary schools in the Kingdom of Tonga, since 1998. The results showed a decrease of dental caries in kindergarten and primary schools.

In addition, the Kingdom of Tonga is known for having a lot of people suffering from obesity in comparison with other countries. Therefore, NCD (Diabetes Mellitus, Cardiovascular Disease) is a problem and number one cause of death, as many lives are lost early.

The SPMT therefore, commenced "The project for improving adult's lifestyle approach from oral health in the Kingdom of Tonga" from 2013 in cooperation with JICA". The project approaches from oral health prevention-periodontal disease, related to improving lifestyle, in trying to prevent and fight against NCD, especially diabetes. The SPMT, together with dental and medical staff of Tonga performed the health examination and questionnaire in different Governmental Ministries in Tonga for e.g. Prime Minister Office, Radio TV-Tonga etc. Moreover, the spread of oral health related NCD was informed to them during the Outreach Ministries' Visit.

The presentation reports the Oral Health Examination, Care and Questionnaire that were provided for them during the Visit.

